

7. 思想

7.1. フランクルの著作『夜と霧』

精神医学者の**フランクル**は、人生に意味があるかどうかという疑問に取り組み、人生の意味を求めて苦闘することは、人生に目覚めた青年の特権であるといっている。彼は、第二次世界大戦の時に、**ナチスのアウシュヴィッツ収容所**に入れられ、**死の恐怖と飢えを体験した**。その体験をもとに、**人生の意味を追求した著作『夜と霧』**では、「わたしたちが人生から何を期待できるかが問題なのではなく、人生が何をわたしたちに期待しているかが問題なのである。人生はわたしたちに毎日、毎時間、問いを出し、わたしたちはその問いに正しい行為でこたえなくてはならない」とした。

補足: 人名と著作と語句の意味

フランクル…1905～97年。ドイツの精神医学者。**ヤスパース**など**実存主義の哲学者の影響**を受け、それを基にして、独自の心理療法を開発・提唱した。**『夜と霧』・『死と愛』**

フロム…1900～80年。ドイツの精神分析家・思想家。**フロイトの精神分析の考えを社会的、文化的現象に 응용して分析を行った**。ユダヤ系であったため、ナチスの迫害をのがれ、ドイツからアメリカに亡命した。**『自由からの逃走』**

ヘルマン・ヘッセ…1877～1962年。ドイツの小説家・詩人。代表作**『車輪の下』**は、**自らの思春期の波乱に富んだ体験をもとに書かれたものである**。

ハイデッガー…1889～1976年。ドイツの哲学者。実存主義的思想家で、**真の主體的自己を回復するためには、「死への存在」としての自己を自覚しなくてはならない**、と説く。第二次大戦中ナチスに協力したとして、戦後の一時期、教壇を追われた。

サルトル…1905～80年。フランスの哲学者・文学者。**人間においては、事物と違って実存が本質に先立つと主張**。行動する知識人として活発な活動を続けた。

実存主義…**全てを合理的に処理する理性に対し批判的**。現代の機械文明の中で疎外される人間の姿をとらえ、各個人の自覚・決断・努力によって、かけがえのない自由な主体性を確立し、自己疎外を克服することが目的。

キェルケゴール…1813～55年。デンマークの哲学者。**実存の三段階を説く**(美的実存→論理実存→宗教実存)。

ニーチェ…1844～1900年。ドイツの哲学者。**反キリスト、既存道徳への批判を行い、力への意志をもつ超人をめざすことを主張した**。

ヤスパース…1883～1969年。ドイツの哲学者。**極限状態で自己の限界を自覚、その後、他者との実存的な交わり(愛しながらの戦い)が必要と説く**。

7.2. 哲学者

7.2.1. ジョン=スチュアート=ミル (1806～1873)

個性ある少数者は常に多数者の専制化の脅威にさらされると考え、**個性のない多数者に対する個性ある少数者の自由を強調した**。

イギリスの哲学者ミルの自由論。ミルは思想と討論の自由も重視し、権力者や多数派の意見が正しいとしても、自由な討論なしに少数派の意見を抑圧すれば、権力者や多数派は常に自らが正しいと考える偏見におちいると主張。

7.2.2. マルクス（1818～83年）

文明の歴史を**階級闘争**の歴史としてとらえ、生産力が高まり剰余生産物が生まれると、これを**搾取する階級と搾取される階級に分裂し、そこから闘争が始まると主張した。**

マルクスの階級闘争の考え方。科学や技術の進歩により、生産力は高まっていくが、資本家と労働者との生産関係は変化しない。そこに矛盾が生じ、変革が必要となり、社会革命が起こると主張した。

7.2.3. ブルンチュリ（1808～81年）

国家を「ひとつの有機体として多数の部分的な組織から形成され、全体は部分を、部分は全体を保証する」存在とみなし、**「有機体的国家論」を唱えた。**

ドイツの法学者ブルンチュリの考え方。「有機体的国家」の立場から、ロック、ルソーなどの社会契約説を否定。個人よりも国家を重視し、富国強兵政策を進める明治政府に正当性を与えるものとされた。

7.2.4. ルソー（1712～78年）

社会契約のもとでは、政府はただ単に盛時の執行を委託されただけにすぎず、あくまで**国家の主権は人民にあり、その意志は絶対的であると主張した。**

フランスの啓蒙思想家ルソーの考え。ルソーは、政府は人民の意志の執行機関にすぎないことを説いた。また、著書『**社会契約論**』において、直接民主主義を政治の理想とした。

7.2.5. ベンサム（1748～1832年）

「功利の原理」および「最大多数の最大幸福」の理念を説き、この理念が実現されたとき、社会の幸福は最大になると主張した。

イギリスの哲学者ベンサムの記述。功利の原理とは、人間は快楽を求め、苦痛を避けようとするのであるから、**幸福を増大させる行為を正しい行為、幸福を減少させる行為を正しくない行為とみなす。**また、社会全体の幸福を増大させるためには、個人の幸福の総計を増大させることになるので、**最大多数の最大幸福を実現するべきであると主張した。**

7.3. 哲学・思想用語

7.3.1. イデオロギー

イデオロギーの語源は、**フランス語の観念学**（観念の形成過程を研究する学問）から来ており、**社会のあり方によって制約され、規定された人々の意識や考え方**のことである。

7.3.2. ルサンチマン

ルサンチマンとは、**ニーチェの用語**で、**一般の既成道徳の根底にある、弱者の内政的な復讐心**のことである。

7.3.3. パラダイム

パラダイムとは、**クーンの用語**で、**「理想的枠組」**のこと。

7.3.4. アンガージュマン

アンガージュマンとは、**サルトルがよく用いた言葉**で、**「拘束」と「参加」**の2つの意味がある。

7.3.5. イデア

イデアとは、**プラトンが考えたもの**で、**理性を持つ全ての人が認める普遍的・客観的な知識や判断**のことである。

7.3.6. ハビトゥス

ハビトゥスとは、**ブルデューの用語**で、**「社会的に獲得された性向の総体」**の意味として用いた。

7.4. 中国の思想

7.4.1. 荀子

『聞かざるはこれを聞くにしかず。これを聞くはこれを見るにしかず。これを見るはこれを知るにしかず。これを知るはこれを行うにしかず。学はこれを行うに至りて止む。』

意味: 聞いたことがないよりは聞いた方がよい。聞いただけよりは見た方がよい。見るだけよりは知の方がよい。知るだけよりは実際に行う方がよい。学問は実行できたときに初めて修了となる、という意味。

『青は、これを藍より取りて、藍より青し』

意味: 青色の染料は植物の藍より取るが、原料の藍よりも青い、という意味。弟子が師匠よりも優れていることのたとえである。

7.4.2. 朱子

『少年老いやすく学成りがたし 一寸の光陰軽んずべからず いまだ覚めず池塘春草の夢 階前の梧葉すでに秋声』

意味: 若いと思っているうちにすぐに年を取ってしまい、学問は進まない。だから、若いうちに時間を無駄にせず、学問に励まなければならない。

7.4.3. 老子

『上善は水のごとし。水は善く万物を利してしかも争わず。衆人の悪む所に処る。ゆえに道にちかし。』

意味: 最高の善は、水のようなものである。水は万物に恩恵を与えるが、争うことはなく人々のいやがる低いところにとどまっている。だから、水は無為自然の道に近いのである。

7.4.4. 莊子

『君子の交わりは淡きこと水のごとく、小人の交わりは甘きこと醴のごとし。』

意味: 君子の人との交わりは淡白で、しかも友情は永久に変わらない。それに対して、思慮の浅いもの(小人)の交わりは醴(甘酒)のようにしつこく、かえって長続きがしない。

7.5. スイスのユング

『個人的無意識の底に、民族や人類に共通する無意識が存在すると考え、それを「集合的無意識」とよんだ。』

ユング(1875～1961年)… スイスの精神科医、心理学者。フロイトの弟子であったが、その後、独自の学説を築いた。フロイトの無意識が主に個人を対象としていたのに対し、ユングはそれを人類史の起源にまでさかのぼる集合的なものと考えた。

補足:

- ・文化記号論… スイスのゾシユール(1857～1913年)とアメリカのパーズ(1839～1914年)が創始者。『高度文明社会も記号の構造にしがたって組織されており、言語・習慣・制度・法律などはすべて記号のシステムであると考えた。』
- ・フロイト(1856～1939年)… フロイトは、オーストリアのユダヤ人の精神科医で、精神分析の創始者。フロイトは人間の心理現象は性的エネルギーと自我との葛 であると考え、無意識下の願望が、夢という形に姿を変えてあらわれて来ると考えた。フロイトの理論は、心理学方面だけでなく、社会科学、芸術など多方面に大きな影響を与えた。『彼は精神科医として患者の夢を分析するうちに、意識下に潜在する心のはたらきに気づき、それを「無意識」とよんだ。』

- **イド**…フロイトの理論。フロイトはイドを自分の心の中に存在していながら、**自分の意志でコントロール不可能なものである**とした。
『「イド」すなわち無意識の深層に潜在している本能のエネルギーは**睡眠と食欲**であると考えた。』
- **ニーチェ**…**ニーチェの能動的ニヒリズムの思想**。能動的ニヒリズムとはニヒリズムを直視し、これを積極的に生きることによってニヒリズムを克服しようという考え。
『彼は人生の目標や意義を見失って刹那的享楽や絶望に逃避する態度を「**絶望的ニヒリズム**」として退け、無意味な人生の悲惨さを直視し、乗り越えようとする「**能動的ニヒリズム**」の思想を提唱した。』